テストについて知る
TOEFL®テスト

TOEFL®テストは、英語を母国語としない人の英語力を測定するテストです。世界160ヶ国以上、11,500以上の団体で実施され、受験者数は年間で約110万人となっています。英語圏の大学などへの留学や海外研修プログラムなどに応募する際に、TOEFL®テストのスコアが求められることも多く、海外留学へのパスポートとも言えるテストです。

TOEFL®テストには、公式テスト：TOEFL iBT®テストと、学校などが実施する団体受験プログラム：TOEFL ITP®テストの2種類があります。テストの内容、スコアとその利用範囲が異なりますので、求められる要件を確認して、どちらのテストを受験するかを選択してください。

■ TOEFL®テストの試験概要・構成

◆ TOEFL iBT®テスト

現在国内で実施されている公式テストで、受験はコンピュータを使って行われます。Listening, Reading, Speaking, Writingの4つのセクションからなり、試験時間は約2時間です。スコアは0～120で表示されます。非常に難易度の高いテストです。

★公式テストとして実施されていたマークシート方式のテスト（TOEFL®PBTテスト）は、現在日本では実施されていません。

Section	問題数・形式	時間	スコア
Reading	2 Reading Passages （各10問） アカデミックな長文読解問題（自然科学・社会科学・芸術などの分野から出題）	35分	0～30
Listening	3 Lectures（各6問）／ 2 Conversations（各5問） 幅広い教養科目を題材にした講義、教授と生徒との会話などを題材とした出題	36分	0～30
Speaking	Independent Task（1問）／Integrated Tasks（3問） 身近なトピックについて意見を述べる／読み・聞きした内容を要約して話す	16分	0～30
Writing	Academic Discussion Task（1問） 教授の質問に対してクラスの人の意見を読み、自分の意見を述べる	10分	0～30
	Integrated Task（1問） 読み・聞きした内容を要約する	20分	
合　計		約2時間	0～120

★2023年7月26日以降、iBTテストは新形式に変更されました。
詳細は、TOEFL®テスト日本事務局のホームページ（https://www.toefl-ibt.jp/）をご確認ください。

◆ TOEFL ITP®テスト

大学などの団体向けプログラムで、マークシート方式とオンライン方式（TOEFL ITP®テスト デジタル版）があります。Listening, Structure, Readingの3つのセクションからなり、試験時間は約2時間、スコアは310～677で表示されます。マークシート方式とオンライン方式では、出題・解答形式、スコア評価など同一内容で実施されます。

★TOEFL ITP®テストのスコアは公式スコアではありませんが、公式のスコアと高い相関性があるとされ、学内の留学プログラムや大学院進学・就職活動などの多くのケースでそのスコアを利用することができます。ただし、スコアの利用の可否については、必ず事前に提出先に確認してください。

Section	問題数・形式		時間	スコア
Listening Comprehension	北米で話されている標準的な英語を聞き取り、内容を理解する力を測定。音声を聞き、それに関する質問について4つの選択肢から解答を選択。（50問）	PartA 二人の話し手の会話	約37分	31～68
		PartB PartAより少し長めの会話		
		PartC 短めの話		
Structure and Written Expression	標準的な文章表現や文法の知識を測定。文中の下線部に正しい語句を補完し文章を完成させる問題や文章中の誤った表現を選択する問題 （40問）		25分	31～68
Reading Comprehension	大学の授業で取り上げられるようなトピックについて読解力を測定。社会科学や自然科学などの幅広い分野から出題される。（50問）		55分	31～67
合　計			約2時間	310～677

■ TOEFL®テストのスコアレベルについて

iBT	ITP	ガイドライン	必要とされるスコア
100-120	600-677	ビジネスや大学生活を送るうえで、会議や授業で普通に話すネイティブスピーカーの言葉も困難なく聞き取り、不自由なくコミュニケーションができる。	海外大学院留学や海外でのビジネス
79-100	550-600	ビジネスや大学等の場面で、会議や授業で普通に話すネイティブスピーカーの言葉が聞き取れ、柔軟なコミュニケーションがとれる。議論や様々な話題についていけ、質疑応答も可能。	海外の学部留学 国内大学院進学
61-79	500-550	日常会話のコミュニケーションはほぼ支障がない。ビジネスや講義で自分の専門分野や興味のある話題に関して内容を理解でき、自分の意見を説明したり、明確な文書を作成できる。	
45-61	450-500	ビジネス・日常生活において一般的な事柄について、内容を理解し自分の考えを表現できる。	
32-45	400-450	日常的な事柄や仕事に関する簡単な文書を読むことができる。通常の会話で自分と関係のあることに関して簡単な言葉でコミュニケーションが可能。	大学在学中に目指したいレベル
17-32	350-400	日常よく使われる表現や基本的なフレーズを用いて必要最小限のコミュニケーションが出来る。	

TOEFL®テストのスコアレベルと、英語運用能力の関係についてまとめたのが左の表となります。英語学習の目標を考える際の参考としてください。

海外留学に必要なスコアとしては、英語圏の大学進学の場合、iBTで80点が目安と言われています。大学や参加するプログラムにより幅がありますので、留学先の応募要項などで確認してください。

テストに関する詳しい情報・申込方法などは
下記運営団体のホームページをご覧ください。

ETS Japan 合同会社 TOEFL®テスト日本事務局
https://www.toefl-ibt.jp/